

風台の原

令和3年度 第12号 (通算328号)

—佐西学校だより—

令和4年3月24日発行

〔発行責任者〕

長崎県立佐世保西高等学校長 城 美博

卒業生を送る

校長 城 美博

3月に入り、春が駆け足でやってきました。5日(土)は啓蟄、21日(月)には春分を迎え、花の便りも、もうすぐ届きそうです。

そんな中、3月1日(火)、第56回卒業証書授与式を挙行し、230名の卒業生を無事送り出すことができました。高校1年生の終わりからは、コロナ禍の影響を受けて様々な行事が中止・延期・規模縮小と、大きな制限を余儀なくされた学年でありました。そのようなことを思うとき、止むを得ないこととはいえ、多くの機会を奪ってしまったことへの申し訳なさとともに、私たち大人の責任を思わざるを得ませんでした。

ただ、3年生の言葉を聞くと、コロナ禍にあって学んだことや周囲の人々への感謝を挙げているものが多く、むしろ、このような状況を過ごしたからこそ成長できたのではないかと感じることができ、「逆境は人を育てる」ということを実感した次第です。

また、この3月は国公立大学の合格発表がありました。思い通りに第一志望に合格した人、残念ながら悔しい結果に終わった人、まさに悲喜こもごもでありましたが、結果は結果として受け入れるしかありません。重要なことは、受け入れた後にどのように行動するかではないでしょうか。

賢明な君たちならば、このようなことは言うまでもないことかもしれませんが、進学や就職は、ただその学校なり職場なりに場所を得たということに過ぎず、ましてや将来を保証してくれるものではありません。ある学校や職場に在籍することができるということと、そこで何を成すか、ということの間には大きな隔りがあることは理解しておいてください。

私にも経験がありますが、ここから先の学問や仕事というのは、覚悟を決めて自分からぶつかっていかないと、とても歯が立たない難物です。その分野の優れた先達が営々と積み上げてきたものと向き合い、自分なりの仮説や見解を立てたり、場合によっては全く新しいものを作り上げようとしたりするわけですから、容易なことではないというのは、よくわかるのではないのでしょうか。

これまでの教師生活の中で、数多くの卒業生を見送ってつくづく思うのは、人生はどうなるか本当にわからない、ということに尽きます。かつて松本清張は「人生は卒業する学校によらない」と書いていましたが、まさに至言であります。

いよいよ令和3年度が終わります。第56回生の健闘を心から称え、1・2年生の諸君が一段高い自覚と覚悟をもって学校生活に取り組んでくれることを願って、佐世保西高校は、新たな令和4年度へと進んでまいります。

1学年

58☆Go!! Yeah!! Revolution☆～第1章～

令和3年度が終わろうとしています。皆さんが佐世保西高校に入学してあっという間に1年が経ちました。中3の夏や秋に自分で進路を決定して、自分の力で掴んだ西高生活。同じような熱量を持って、高校生活に向かうことができたでしょうか。元気があり、誰にでも積極的に話しかけてくれる人、一生懸命に学習に励み将来の自己実現のために努力を重ねることができる人、人への思いやりを持って優しい言葉をかけてくれる人、誰かのために自分にできることを考えて行動を起こしてくれる人。そういうたくさんの素敵な姿を目にすることができました。しかし、まだまだ「課題」もあります。その「課題」は一人一人、違いますが、学年として、もう少し自分を律することのできる人になってほしいと願います。「自律」です。大人でも難しいことではありますが。社会で生きる時には、「したくてもしてはいけないこと」があります。「したくなくてもしないといけないこと」もあります。その両方が自分を律することで可能となるのではないのでしょうか。高校生活は楽しいことばかりではないですが、苦しいことばかりでもないと思っています。自分で楽しむために何かを考え出し、苦しいことが自分を成長させる糧になることを信じ、1日1日を大切に過ごしてほしいと思っています。

来年度は、研修旅行、本格的な探究、学力伸長に向けての取組等、とても重要な1年です。後輩も入学してきますよ!! いつまでも後輩気分ではいけません。先輩として、後輩に「範」を示してほしいと思います。それができるといことも信じています。Go!! Yeah!!の精神で、強くたくましく、成長していきましょう。
(1学年主任 峯 悦子)

2学年

1年を振り返って・・・そして1年後は・・・

with コロナ。世界で猛威を奮っているコロナウィルス。思い返せば、入学当初からコロナウィルスに翻弄されてきました。2022年になり、数だけで言えば長崎県内でも未だかつてない感染者数を記録しています。今まで当たり前であったことが当たり前ではなくなった日々の生活。マスク着用。度重なる消毒。黙食。家族が体調不良というだけで自宅待機になった人もいます。中には、自宅学習を余儀なくされ、リモート授業を経験した人もいます。そんなとき、今まで当たり前を受けてきた授業がいかに分かりやすかったか、楽しかったか、さらに、分からないところを友人や先生に質問できる環境や、ペアワーク、グループワーク学習、小テストの重要性にも改めて気づかされたことと思います。

話は変わりますが、コロナに翻弄されながらも、国内研修旅行が実施できました。このことは、私にとっても、皆さんにとっても一生の思い出になることと思います。誰一人として体調不良を出さず、全員無事に帰宅できたことに安堵したことを覚えています。また、研修旅行中の皆さんの時間厳守の行動には素晴らしいものがありました。旅行代理店の方、バス会社の方にもお褒めの言葉をいただきました。

さあ、いよいよ残すはあと1年。今現在、1つ先輩上の先輩(56回生)から、続々と合格の知らせが届いています。学年を通して団結できる57回生諸君、先輩方を越えていくぞ!!

(第2学年主任 萩原 広太)

《4月の行事予定》

4/4	(月) 新入生オリエンテーション	SAKURA フェス (午前)
8	(金) 大掃除 新任式 前期始業式	第59回入学式 育友会入会式
11	(月) 春季実力テスト (全学年)	
12	(火) 春季実力テスト (3年)	新入生研修 (~14日)
13	(水) 各種委員会 (全学年)	内科検診 (午後、他14、20、21、27日) 尿検査 (一次)
14	(木) 尿検査 (一次予備日)	部活動編成
28	(木) 歓迎遠足 (予定)	



3学年

佐世保西高第56回生の皆さん、卒業おめでとうございます。令和という新しい時代とともに西高生活をスタートさせた皆さんでしたが、決して明るく楽しいばかりの高校生活ではなかったかもしれません。特に新型コロナウイルスの蔓延は、皆さんから日常生活を奪い、新しい行動様式を余儀なくされました。2年次は臨時休校が続き校内外の行事がことごとく中止され、修学旅行も海外から国内に変更となりました。3年生になってからもコロナ禍で受験期を迎え不安も大きかったことでしょう。しかし、皆さんは不平不満を言うことなく、目の前の現実にしっかりと立ち向かい、時に笑い時に悔しがるなど全力で高校生活を送ってくれました。そんな皆さんの姿から私たちは元気と勇気ももらいました。これからますます皆さんの活躍を期待しています。

3年間ご支援いただきました保護者の皆様、地域の方々、56回生に関わってくださった全ての方々、本当にありがとうございました。(第3学年主任 戸塚 邦彦)

第56回卒業生代表 早田麗莉亜さん(江迎中学校出身)の答辞(全文)

梅の花がようやくほころび始め、やっと春を感じられるようになってきた今日のこの佳き日に、私たち56回生230名は卒業の日を迎えます。

入学してから今日までの日々は、あっという間でした。三年前の入学式、これから始まる新しい生活に、期待と不安でいっぱいでした。周りは知らない人ばかりで、最初はなかなか打ち解けられず、楽しみよりも不安の方が大きかったような気がします。でも、話しかけて下さった担任の先生や、クラスの友達のおかげで、学校生活にも慣れ、徐々に佐世保西生としての自覚を持って過ごせるようになっていました。初めての体育大会、文化祭。生徒が中心になって様々な行事が行われる。その中でも当時の三年生の皆さんが、私たちを指導し、励まし、盛り上げてくださいました。

二年生の始まりは、いきなりの緊急事態宣言と、自宅学習の日々でした。新型コロナウイルスの感染拡大。多くの行事が中止、縮小となりました。その中でも高総体の中止は、先輩方の活躍の舞台を目にする機会を奪いました。でも、中止が決まるその直前まで、先輩方は諦めずに熱心に練習されていました。中止が決定しても、引退する最後の日まで、カッコいい姿を見せ続けてくださいました。その姿に勇気ももらい、それからの練習に熱がはいりました。修学旅行も、これまでとは異なり、国内旅行となりました。あるかないかもわからない状況の中でも北陸まで行くことができました。感染対策をしっかり行い、一人の感染者も出さずに、無事に帰ってこられた。佐世保では感じるような寒さを体験し、充実した四日間を過ごせて、大切な思い出となりました。

三年生になり、私たちは最上級生として佐世保西高を引っ張ることになりました。

高総体。二年ぶりの高総体は、無観客での実施でしたが、開催されたこと自体が嬉しかった。先輩方の悔しい思いを背負い、最後の試合に臨む選手の姿に感動しました。一番の思い出は体育大会です。実施されるのか、先の見えない状況の中で、不安でした。規模は縮小され、限られた状況の中、そこでできる精一杯のことをやりました。自分たちで一からダンスや演舞の振り付けを考え、練習していく中で、時には意見が衝突することもありました。短い時間の中で、本番までに完成できるのかという不安もありましたが、本番でのブロックの発表は、それぞれの思いが詰まっていて、一人一人が輝き、感動的でした。ブロックの枠を越えて、三年生全体が一つになるのを感じました。ねえ、みんな、そうだったよね。あの日の達成感や感動、楽しさを鮮明に覚えている。受験勉強は、正直つらいものでした。校内学習会、毎日の七時間授業に加えて八時間目の講座、自学。毎週のようにある模試。勉強漬けの毎日でした。いくら頑張ってもすぐには結果は出ず、成績の伸びに悩むことも多く、苦しい思いもたくさんして、やめたくなることもありましたが、共通テストが近づくにつれ、焦りや不安もあつたけど、熱心に教えて下さる先生方や、一緒に頑張る仲間が存在が支えになり、悔いなく頑張ることができました。私を最も成長させてくれたのは生徒会活動です。私にとって生徒会長になることは大きな挑戦でした。新型コロナウイルスの影響によって、様々な制約があり、例年通り行事を行うことができませんでした。文化祭は例年と違って学年別の三部制で行いました。同じことを何度もする苦労はありましたが、みんなの精一杯を支えることができましたと思います。生徒会役員みんなで意見を出し合い、協力し合えたおかげだと思います。うまくいかないこともあって、不安で思い悩むこともありましたが、でも、どんな時でも優しく、困ったときには一緒に考えてくれる生徒会役員みんなや、いつも見守り、的確にアドバイスを下さる先生方の支えに私は何度も救われました。生徒会活動を通して、大きな達成感や学びを得ることができました。

新型コロナウイルスの影響で、学校が休校や時差登校になり、学習だけでなく、部活動やいくつもの学校行事の予定が崩れ、思うように自由には過ごせなかった。でも、そんな中で、当たり前なのが、当たり前でできることのありがたさを感じました。一緒に泣いたり笑ったり、共に過ごした何気ない日々がかけがえのないものでした。

卒業生のみんな、休み時間や昼休み、放課後に交わしたたわいもないおしゃべりでたくさん笑ったこと、そんな日々が本当に幸せだった。みんなで過ごす日々が、もう最後だと思うと、とても寂しい。

在校生の皆さん、思えば皆さんは三学年が全員揃う行事も数えるほどしか、ありませんでしたね。三学年がそろって作り上げる体育大会の応援合戦も、皆さんは知らないのですね。いろいろなものが大きく変わりました。気づいたら三年間はあっという間に過ぎてしまうから、目標を持って大切に過ごしてください。そして、新しい佐世保西高を作り上げてください。

先生方、時にやさしく、時に厳しく、ご指導して下さり、ありがとうございます。どんなときにも私たちを見守り、困ったことがあれば的確なアドバイスをしてくださる先生方の支えがあって成長することができました。

そして、お父さん、お母さん、どんな時でも味方してくれて、励ましてくれて、寄り添い不安を和らげてくれた。したいことは何でもさせてくれて、私が決めたことは否定せずに応援してくれた。家族の支えがあって、当たり前のように毎日を平穏に過ごすことができた。十八年間、大切に育ててくれて感謝の気持ちでいっぱいです。

思えば新型コロナウイルスに翻弄された高校生活でした。私たちの生活様式も大きく変わりました。世の中は不確実で、複雑で、予測不可能で、そして変化目まぐるしい時代です。その中で私たちは、自分の目で見、自分の耳で聞き、自分の頭で考えていかなければなりません。この三年間で培った諦めない心と、信じる力はこれからも私たちの中で生き続けます。

この佐世保西高で過ごしたことを私たちの誇りとし、力強く生き抜くことをお誓いするとともに、われらが母校の、益々のご発展とご活躍を祈念いたします。



部活動の結果報告

<その他>

- 令和3年度長崎県明るい選挙啓発ポスターコンクール 高等学校の部
長崎県明るい選挙推進協議会会長賞 2年 松本麗
優秀賞 2年 井上太貴、北村佳乃子、田村美結
- 令和3年度公益財団法人明るい選挙啓発ポスターコンクール
(公財) 明るい選挙推進協議会会長・都道府県選挙管理委員会連合会会長賞(全国) 2年 松本麗
- 第五回和歌山県データ活用コンペティション(全国最終審査会出場)
協賛企業賞: システムキューブ賞 2年 磯本夏南、奥野智美、西原良紀、竹内寛之
- 地方創成政策アイデアコンテスト2021(九州代表として、全国最終審査会出場)
高校生・中学生の部 True Date賞 2年 荒木翔、武田みなみ、岩佐友莉華、浦上浩之介、一瀬恒太郎
- 全国高校生マイプロジェクトアワード 全国 Summit(48プロジェクト) 出場権獲得(参加総数1076)
- 第7回高校生国際シンポジウム ポスター部門 社会科学・観光分野 最優秀賞
- 「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」『長崎を元気にするアイデアコンテスト』 奨励賞
「佐世保独楽を広めよう」 2年 松本祥太郎、山瀬美咲、横石美幸、吉次朱里、若井咲季
- 令和3年度「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」
『高校生アントレプレナーシップゼミ』
優秀賞(株式会社西海クリエイティブカンパニー賞) 2年 永安蒼天